

第 57 回北海道小児循環器研究会

日 時：平成 23 年 11 月 19 日（土）

場 所：北海道医師会館 8 階 A 会議室（札幌市中央区大通西 6 丁目）

演題 1 フォンタン型手術適応外と判断された症例の検討

¹⁾ 北海道大学病院小児科, ²⁾ 循環器外科

佐々木理 ¹⁾, 上野倫彦 ¹⁾, 武田充人 ¹⁾, 山澤弘州 ¹⁾, 武井黄太 ¹⁾, 古川卓朗 ¹⁾,
橘 剛 ²⁾, 夷岡徳彦 ²⁾

対象：2000 年以降当院で Glenn 手術を施行された 35 例のうち Fontan 手術適応外と判断された 3 例。まとめ：Fontan 循環成立のためには，high flow にならないような治療戦略を立てること，特に PA banding 後 high flow と判断した場合は re-banding や早期の Glenn 手術を考慮すること，ハイリスク症例に対して積極的に心保護を行うことが望ましい。

演題 2 著明な奇異性運動を呈する心室中隔瘤と WPW 症候群を合併した 5 歳男児例

¹⁾ 旭川医科大学小児科, ²⁾ 網走厚生病院小児科

梶濱あや ¹⁾, 中右弘一 ¹⁾, 杉本昌也 ¹⁾, 梶野浩樹 ¹⁾, 太田 圭 ²⁾

1 歳 6 か月で心雑音に気付かれ，心エコーにて心室中隔上部 1/2 の奇異性運動，ECG にて WPW 症候群（type B）を認めた。%LVEDV は 220% と拡大し，NT-proBNP は 680 pg/ml と高値であったため，ACEi の内服を開始した。瘤の拡大はなく，5 歳 8 か月現在 NT-proBNP は 400pg/ml 前後で推移している。今後の心不全症状出現について注意深い観察が必要である。

演題 3 胎児診断をもとにした計画的治療により救命しえた circular shunt を伴う重症 Ebstein 奇形の一例 —Multidisciplinary Team の重要性—

¹⁾ 北海道立子ども総合医療センター循環器科, ²⁾ 心臓血管外科

長谷山圭司 ¹⁾, 和田 励 ¹⁾, 高室基樹 ¹⁾, 横澤正人 ¹⁾, 柳清洋祐 ²⁾, 石川成津矢 ²⁾,
渡辺 学 ²⁾

妊娠 30 週での妊婦検診で心拡大，胎児不整脈あり，入院精査にて circular shunt を伴う Ebstein 奇形と診断され，計画的分娩の必要性から当センター紹介。胎児診断から出生直後に主肺動脈結紮術を施行する方針となり，関連部署によるカンファレンスを繰り返し施行した。出生直後から治療を要する症例には，多職種による周産期チームの確立が重要である。

演題4 Circulation shunt を呈した重症 Ebstein 奇形に対し生直後の肺動脈結紮術および待機的 modified Starnes 手術を施行した1例

1) 北海道立子ども総合医療センター心臓血管外科, 2) 循環器科
柳清洋佑¹⁾, 渡辺 学¹⁾, 本田義博¹⁾, 石川成津矢¹⁾, 和田 励²⁾, 長谷山圭司²⁾,
高室基樹²⁾, 横澤正人²⁾

胎児期に心拡大を認め、精査にて胎児 Ebstein 奇形と診断された。肺動脈結紮術を施行し circular shunt 閉鎖による心負荷を軽減させた。Lipo-PGE₁ を持続投与し肺動脈管を維持した状態で循環管理を行い、生理的肺高血圧の低下が認められた生後 4 日目に modified Starnes 手術を施行した。

演題5 TCPC(lateral tunnel)の遠隔成績についての検討

1) 北海道大学循環器外科, 2) 小児科
浅井英嗣¹⁾, 夷岡徳彦¹⁾, 橘 剛¹⁾, 松居喜郎¹⁾, 上野倫彦²⁾

当科における LT 法と EC 法の遠隔成績を比較し、標準術式としての EC 法の妥当性について検討した。対象症例は当科にて手術施行し、3 年以上フォローする事の出来た LT 法 12 例, EC 法 13 例。結果は臨床症状における有意差はなかったものの、循環における指標は EC 法で有意に良かった。また不整脈発生のリスクは LT 法で有意に高かった。結語今後の長期フォローの過程で EC 法に有利な臨床症状の有意差が出現する可能性が示唆された。

演題6 VSD 閉鎖, 肺動脈弁形成術後 32 年後に肺動脈弁閉鎖不全, 三尖弁閉鎖不全を来した一例

旭川医科大学心臓血管外科
福山貴久, 吉田有里, 光部啓治郎, 赤坂伸之

症例は 35 歳男性。3 歳時に VSD に対し近医で VSD 閉鎖術および肺動脈弁形成術を施行した。23 歳時に自己判断で通院を中断。35 歳時に抜歯目的で当院歯科口腔外科を受診し術前の UCG で PR, TR, 右心系拡大所見を認めた。心臓カテーテル検査では RVEDVI160 以上であり手術適応があると考えられ、肺動脈弁置換術, 三尖弁輪形成術を施行した。TOF 術後 PR 患者に対する PVR の適応について若干の文献的考察を加え報告する。

演題7 当科における成人先天性心疾患の手術経験

1) 北海道大学病院循環器外科, 2) 小児科
夷岡徳彦¹⁾, 浅井英嗣¹⁾, 若狭 哲¹⁾, 大岡智学¹⁾, 橘 剛¹⁾, 久保田卓¹⁾,
松居喜郎¹⁾, 佐々木理²⁾, 古川卓郎²⁾, 武井黄太²⁾, 山澤弘州²⁾, 武田充人²⁾,
上野倫彦²⁾